



人権を守るために大切なこと

5月17日に、各学級をZoomでつなぎ、「インターネットと人権」に関する人権教室を開催しました。東京のNTTの方に講師として話をいただき、**説明と短時間の考えの交流を繰り返す形で学び**でした。

今回の教室でキーワードとして出てきた言葉の1つに「**リスクの回避**」がありました。

インターネットには「光」と「影」があると言われて久しくなりますが、「光」と「影」とは何でしょうか。簡単にまとめると「光」≒「利便性」で、「影」≒「危険性」と言えるのではないのでしょうか。

従前の指導では「危険性があるので使わない、〇〇しないようにしましょう。」というものが主流でしたが、これだけのネット社会になり、さらには小学生から自由にタブレットを使いこなすような教育が進められれば、「危険性があることを十分理解し、**リスクの見積り**をして（どうなるか考えたうえで）使いましょう。」という指導になっていくこととなります。

生徒は、自分で考えたことを整理したり、仲間と対話したりしながら真剣に学んでいました。



講師の話を聞きながら、考えたり、整理したりする様子

これから大切なことは、学びを生活に繋げていくことだと思います。そのために学校においては、道徳や特別活動（学級活動）の時間をはじめとする多様な場面で、考えさせる問い、適切な行動を促す指導を充実させることが大切です。併せてご家庭でも、インターネットの正しい理解や、人権について子どもと対話する機会を設定していただければ幸いです。まずは、今現在**リスクの見積りができているか、これまでにいやな思いや経験をされたことがないかを振り返ること**から始めてみてはいかがでしょうか。

宮崎県教育委員会は、一般財団法人LINEみらい財団と連携し、情報モラル教育を推進するために「**GIGAワークブックみやざき**」という資料を作成しています。静岡大学の塩田真吾先生が関わられた、ご家庭で子どもと話をする際に使いやすい資料です。学校でも必要に応じて利用を推進していきますので、ぜひご覧になってください。



<https://mkkc.miyazaki-c.ed.jp/miniict-2/>

いつの日も**確実な備え**を

5月21日に、地震の避難訓練を実施しました。まず、九州地方で震度7の地震が発生し、激しい揺れがあるという想定で、教頭先生からの緊急放送が入りました。

次に、揺れがおさまったことを確認し、運動場の南側に1次避難をしました。落下物がある可能性に備えて、頭を覆いながら落ちて行動できましたが、訓練という意識がどこかにあったためか、**臨機応変に広い場所では駆け足で避難するなどの対応が十分とは言えません**でした。



運動場へ避難する生徒（廊下と非常階段の様子）

さらに、生徒、教職員が全員避難したことを確認した後、津波が押し寄せることを想定した2次避難をしました。2年生とE級生が体育館ギャラリー、1年生と3年生が南校舎屋上への避難でした。階段をのぼる際には、押したりふざけたりすることなく、整然と行動できていました。スムーズな避難を考慮した場合、1箇所に避難するよりも2箇所に避難することが適切だと考えての計画でしたが、**気候、想定される津波の高さ等の条件によっても、対応を変える必要があるのではないかと訓練を通して考えさせられたところ**です。防災士の方にアドバイスを受けるなどして、より適切な避難について整理していきます。

最後に、体育館アリーナに全員集合し、生命の大切さや自らの行動の評価を含めた避難訓練についての講評を私が行いました。また、本校に備蓄されている非常食と災害時の避難所開設についての説明が倉掛教諭からありました。

1月1日に発生したの能登半島地震においては、避難所で中学生、高校生のボランティアが大活躍し、心身ともに苦しい地域住民の方々が助けられたという話をよく耳にします。

災いは起こらないことがいちばんですが、**もしものときに貢献できる備えや心構えも大切**であることを感じています。避難訓練を通して学んだことを、情報生産カードに記入するなどして今後に生かしていこうとする生徒が、本校にも多くいるということを聞き、嬉しく思っています。

さらに、当日の朝活動では、生活安全委員長がプレゼンテーションを使い、地震のメカニズムや南海トラフ地震の発生確率など「もしも」に備える説明を行うことで、自覚的な学びができすばらしかったです。